

令和4年度 1 学年 普通科・水産科 「地理総合」シラバス

教科名	科目名	単位数	学科・学年・授業クラス
地歴公民	地理総合	2	普通科・水産科（1 年全クラス）
教科書・副教材		高等学校 新地理総合（帝国書院）	
科目概要と目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な資質・能力を育成する。 1．地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解する。 2．調査や諸資料から地理に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。 3．地理的な課題の解決に向けて構想したりする力やそれらを基に議論したりする力を養う。		
評価の観点	a 知識・技能	地理に関わる諸事象に関して、基本的な世界の生活文化や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。	
	b 思考・判断・表現力	地理に関わる事象の意味や意義などを、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、それらを基に議論したりする力を養う。	
	c 主体的に学習に向かう態度	よりよい社会の実現を視野に、地理に関わる諸事情に見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。	
評価の方法	評点について a 知識・技能（40 点） b 思考・判断・表現力（40 点） 合計 100 点 c 主体的に学習に向かう態度（20 点） 指導要録用観点別評価、および評定について 1．観点 a について 定期テスト 75％、定期試験以外の評価 25％で換算し、以下のように割り当てる。 40 点～28 点→A 27 点～12 点→B 11 点～0 点→C 2．観点 b について 定期テスト 75％、定期試験以外の評価 25％で換算し、以下のように割り当てる。 40 点～28 点→A 27 点～12 点→B 11 点～0 点→C 3．観点 c について 定期試験以外の評価を 100％で換算し、以下のように割り当てる。 20 点～14 点→A 13 点～6 点→B 5 点～0 点→C		

月	単元	学習内容	学習のねらい・活動	評価の観点		
				a	b	c
4	地図と地理情報システム	地球上の位置と時差 地図の役割と種類	・私たちの生活に様々な地図が利用されていることを理解し、その役割について考える。 ・地球儀・世界地図への理解を深め、時差と緯度や経度との関係について考える。	○		
5	結びつきを深める現代社会	現代社会の国家と領域	・日本の位置と領域について考える。 ・領土問題発生の背景にある問題を理解し、問題を解決するための方法について考える。	○	○	○
6	生活文化の多様性と国際理解	世界の地形・気候と人々の生活	・気温や降水量に地域差が生じる原因を理解し、それらが衣食住に与える影響を考える。	○	○	
7		世界の言語・宗教 歴史的背景と生活	・地域によって文化が異なる理由について、その背景にあるものも含め理解する。	○	○	
8						
9		世界の産業	・世界の宗教の分布と宗教ごとの特徴的な生活習慣があることを歴史的背景を含めて理解する。 ・写真や主題図を用いて、世界の産業の多様性と地域性について考察する。 ・通信産業の発展がもたらす世界の変化、産業の情報化について理解し、情報化社会における社会のあり方について考察する。	○	○	○
10						
11						
12	地球的課題と国際協力	地球環境問題	・環境問題の発生が複数の要因によって引き起こされていることを理解する。	○		
1		資源・エネルギー問題	・統計を用いて、エネルギーの偏在状況と資源をめぐる対立を国際政治・経済との関わりから考察する。		○	○
2		人口・食糧問題 都市・居住問題	・様々な地球的課題について理解し、解決に向けた取り組みを考える。			○
3		持続可能な地域づくりと私たち	・日本の自然環境や地形等を鑑み、主題図や写真などを用いて自然災害がもたらす人命に及ぼす被害について具体例を挙げながら考察する。 ・自宅もしくは地域のハザードマップを用いながら、災害時にとるべき行動について考察する。	○	○	○
		自然災害への備え				
		生活圏の調査と地域の展望	・身近な地域の変遷を新旧地形図の読み取りなどから理解する。 ・地域調査の一連の流れをふまえながら、地域周辺で生じている複数の課題を見いだし、班ごとに調査計画を立案する。		○	○

令和4年度栃木県立馬頭高等学校シラバス

教科名	科目名	単位数	学年・学科・授業クラス
地歴公民	日本史B	2	2 学年 普通科

科目概要と目標	近現代を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連づけながら理解し、人類の課題を多角的に考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を身につけます。		
	教科書・副教材	新選日本史B（東京書籍） プロムナード日本史（浜島書店）	
評価の観点	関心・意欲・態度	世界の近現代史について関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとしている。	
	思考・判断・表現	世界の近現代史についての課題を見出し、多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。追及し考察した過程や結果を適切に表現している。	
	技能	世界の近現代史についての諸資料を収集し、有効な情報を選択して活用する事を通して歴史的事象を追及する方法を身に付けている。	
	知識・理解	世界の近現代史について基本的な事柄を我が国の歴史と関連付けながら理解しその知識を身に付けている。	
評価の方法	定期考査 70%：年5回の定期テストの結果を総合的に評価します。各考査の出題範囲などはその都度提示します。 ノート、課題プリント等 30%：ノート、レポート課題プリント、出欠などを総合的に判断します。		

学習計画および評価方法 等（科の特性に応じて書式や項目を改変してください）

評価の観点：a（関心・意欲・態度）b（思考・判断・表現）c（技能）d（知識・理解）

月	学習内容	学習のねらい・活動	評価の観点			
			a	b	c	d
4	第1章 古代国家の形成と貴族文化の誕生 1 原始社会の生活と文化 2 農耕社会の形成と大陸文化の摂取	自然環境の変化による生活の変化に着目して、旧石器文化、縄文文化の時代と社会について理解します。 稲作農耕を基礎にした弥生文化のはじまりと小国の形成、大和王権と古墳文化の展開について、考古資料や中国の史料などをもとに考察し、理解します。	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○
5 6	3 律令国家の形成と古代文化の展開	隋唐など東アジア世界との交流などから、我が国における律令国家の形成と社会、天平文化の特色について、さまざまな資料をもとに理解します。	○	○	○	○
6 7	4 摂関政治と文化の和様化	東アジア世界との関係の変化、荘園・公領の動きや武士の台頭など地方の動向に着目して、摂関政治から院政、平氏政権の成立など古代国家の推移と、国風文化の展開及び中世社会の萌芽について理解します。	○	○	○	○

月	学習内容	学習のねらい・活動	評価の観点			
			a	b	c	d
8 ～ 10	第2章 武家社会の形成と生活文化のめ ばえ 1 中世社会の成立	武士の土地支配と公武関係、宋元など大陸との関係などから鎌倉幕府による武家政権の形成過程と鎌倉仏教など文化の新しい動向について理解します。	○	○	○	○
11 ～ 12	2 武家社会の形成と東アジア	室町幕府の成立と展開、日明貿易など東アジア世界との交流、庶民の台頭などに着目して、産業経済の発達や下克上など中世社会の多様な変遷及び武家文化と公家文化の関係や庶民文化の萌芽など文化の動向について、史料などをもとに考察し、理解します。	○	○	○	○
1	第3章 近世社会の形成と庶民文化の展 開 1 ヨーロッパ文化との接触 と国内統一	ヨーロッパ世界との接触が、織豊政権から江戸幕府による国内統一にあたえた影響について理解します。	○	○	○	○
2 3	2 幕藩体制の成立	江戸幕府と大名・朝廷、身分制度、キリスト教禁止と鎖国など、幕藩体制の成立と、それが日本の社会や文化にあたえた影響などについて、史料などを基に考察し、理解します。	○	○	○	○

令和4年度栃木県立馬頭高等学校シラバス

教科名	科目名	単位数	学年・学科・授業クラス
地歴公民	日本史B	2	3 学年 普通科

科目概要と目標	近現代を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連づけながら理解し、人類の課題を多角的に考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を身につけます。		
教科書・副教材		新選日本史 B（東京書籍） プロムナード日本史（浜島書店）	
評価の観点	関心・意欲・態度	世界の近現代史について関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとしている。	
	思考・判断・表現	世界の近現代史についての課題を見出し、多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。追及し考察した過程や結果を適切に表現している。	
	技能	世界の近現代史についての諸資料を収集し、有効な情報を選択して活用する事を通して歴史的事象を追及する方法を身に付けている。	
	知識・理解	世界の近現代史について基本的な事柄を我が国の歴史と関連付けながら理解しその知識を身に付けている。	
評価の方法	定期考査 70%：年 5 回の定期テストの結果を総合的に評価します。各考査の出題範囲などはその都度提示します。 ノート、課題プリント等 30%：ノート、レポート課題プリント、出欠などを総合的に判断します。		

学習計画および評価方法 等

評価の観点：a（関心・意欲・態度） b（思考・判断・表現） c（技能） d（知識・理解）

月	学習内容	学習のねらい・活動	評価の観点			
			a	b	c	d
4	第4章近代国家の形成と国民文化の発展 1 開国から明治維新へ 2 立憲政治の形成と 国民文化	文明開化など欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化に着目して開国、明治維新から自由民権運動を経て立憲体制が成立するまでの我が国の近代化について理解します。	○	○	○	○
5 6	3 日本の近代化と東 アジア 4 デモクラシーと 第一次世界対戦	条約改正、日清・日露戦争とその前後のアジア欧米諸国との関係推移などから我が国の立憲国家としての動向を考察します。 国民生活の向上と社会問題の発生、学問の発展や教育制度の拡充など近代産業の発展と近代文化の特色について考察します。 国際社会の中の日本の立場に着目して第一次世界大戦前後の対外政策の推移や国内経済や社会における大戦の影響について考察します。	○	○	○	○
6 7	5 激動する世界と日本	都市の発達と大衆社会の成立に着目して政	○	○	○	○

		党の役割と政治や社会運動の動向及び文化について考察します。 国際社会の動向、国内政治と経済の動揺、アジア諸国との関係に着目して対外政策の推移と第二次世界大戦に突入していく日本の様子について考察します。				
--	--	--	--	--	--	--

月	学習内容	学習のねらい・活動	評価の観点			
			a	b	c	d
8 ～ 10	第5章現代の世界と日本 1 占領と国内改革 2 国際社会への復帰 と高度経済成長	第二次世界大戦後の国際関係の推移に着目して占領政策、新憲法成立、独立回復及びその後の国内政治や外交の動向などについて理解します。	○	○	○	○
11 ～ 12	3 石油ショックと低成長の時代	生活意識や価値観の変化などから戦後の経済復興と高度成長、国際化など経済の発展と国民生活の向上について考察します。	○	○	○	○
1 2 3	4 新しい国際秩序と日本の課題	国際理解の推進と日本文化の特色、世界における日本の立場などに着目して現代世界の動向と日本の課題について考察します。	○	○	○	○

令和4年度栃木県立馬頭高等学校シラバス

教科名	科目名	単位数	学年・学科・授業クラス
地歴公民	歴史探究	2	2 学年 普通科選択 a

科目概要と目標	歴史探究は、那珂川町を中心とした地域の歴史について学ぶとともに、その中から各自の興味・関心に基づいてテーマを選んで調査、研究し、成果をまとめていきます。その際、博物館や資料館の見学、遺跡や史跡の実地調査、史料の読解などさまざまな学習を通して、歴史を研究する方法や、歴史を学ぶことの楽しさを知ることとを目標とします。 また、研究した成果をまとめて発表することで、自己の考えをまとめる力や、伝える力など、表現力を養います。		
教科書・副教材		那須の歴史と文化（なす風土記の丘資料館）	
評価の観点	関心・意欲・態度	・那珂川町および周辺地域の歴史や文化について関心を持ち、みずから設定したテーマについて、他の生徒と協力しながら積極的に探求している。 ・博物館や資料館、遺跡や史跡を実際に訪れ、資料収集や、現地調査を行っている。	
	思考・判断・表現	・様々な遺物や史料、先行の研究などを踏まえながら歴史の発展について考察し、判断している。 ・自己の意見を論理的に展開できる。 ・自分の研究成果をまとめ表現できる。	
	技能	・諸資料を様々な方法で収集し、効果的に活用している。	
	知識・理解	・歴史の基本的な研究の仕方を身につけている。 ・地域の歴史についての基礎知識を理解している。	
評価の方法	以上の4観点に沿って、研究テーマの設定、調査への取り組み状況、研究成果のまとめと発表などから総合的に判断します。		

学習計画および評価方法 等

評価の観点：a（関心・意欲・態度） b（思考・判断・表現） c（技能） d（知識・理解）

月	学習内容	学習のねらい・活動	評価の観点			
4	那珂川町の歴史Ⅰ	那珂川町の歴史（概説）【知】	a	b	c	d
5		那珂川町の遺跡・史跡【知】				○
		研究テーマの設定とグループ分け【関・思】				○
			○	○		
5	那珂川町の歴史Ⅱ	研究テーマに沿った調査・研究【関・思】	○	○		
6		グループ内での役割分担・討議・まとめ	○	○		○
7		【関・思・知】				
7	夏休み 博物館・資料館探訪 遺跡・史跡調査	研究テーマに関連した遺跡・史跡の現地調査【関・知】	○			○
8						
8	修学旅行関連史跡の研究	修学旅行で見学する史跡などについて、それぞれ分担して調べ、内容をまとめる。	○	○		○
9		【関・思・知】				
10		修学旅行終了後 研究テーマに沿った調査・研究【関・思・知】	○	○		○
11	課題設定と探求 （発表・討論）	研究のまとめ（プレゼンテーションソフトを使用）【関・思・技・知】	○	○	○	○
12						
1		研究成果の発表【思・技・知】		○	○	○
2						

令和4年度栃木県立馬頭高等学校シラバス

教科名	科目名	単位数	学年・学科・授業クラス
地歴公民	地域探究	2	3 学年 普通科選択 c

科目概要と目標	那珂川町や栃木県という身近な地域を題材に、SDG s の観点を踏まえて、その地域が抱える課題はどのような背景のもとにあるのか、その課題をどのように解決するのか、具体的な計画と実践を通して、社会のしくみや社会参画のあり方について学ぶ科目です。 社会的な見方・考え方を働かせ、地域を題材とした課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会と地域社会との関わりを学び、多様で複雑に変化する社会に柔軟に対応できる、主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目標とします。	
	教科書・副教材	なし
評価の観点	関心・意欲・態度	・地域が抱える課題を意欲的に追究し、積極的に解決策を模索しようとしている。 ・積極的に外部の方々等他者の意見を取り入れながら、解決策を改善しようとしている。
	思考・判断・表現	・様々な立場を踏まえながら地域の課題について考察し、判断している。 ・自分の意見を論理的にデータ等を用いて展開できる。 ・自分の意見を PowerPoint 等にまとめ表現できる。
	技能	・地域に関わる諸資料を GIS や RESAS 等のビッグデータや様々なメディアを通して収集し、効果的に活用している。
	知識・理解	・複合的な地域の課題に関する基本的な事柄や理論などを理解し、その知識を身に付けている。
評価の方法	以上の4観点に沿って、小テスト、レポート、課題解決策の企画・実施状況、中間発表、授業の取組状況などから総合的に判断します。	

学習計画および評価方法 等

評価の観点：a（関心・意欲・態度） b（思考・判断・表現） c（技能） d（知識・理解）

月	学習内容	学習のねらい・活動	評価の観点			
			a	b	c	d
4 5	SDGs の視点からみる那珂川町	栃木県内で最も速く消滅可能性都市となる自治体である那珂川町を題材に、「持続可能な都市」として必要な要件とは何か、どのような取組が必要か、既に取り組んでいる試みの課題等を、仮説を立て、GIS や RESAS 等のデータを用いることや、聞き取り調査をすることを通して考察する。	○	○	○	○
5 6	Action を計画	前項の調査を元に、自分の生き方や進路に照らし合わせて自分にできる行動を計画し、地域の人々の協力を仰ぎながら実践する。	○	○	○	○
7 8 9	Action の実践	地域の人や協力をいただいた方を交えた中間報告会で行動計画を刷新し、内容を深めた上で、夏休み中に実践にうつす。	○	○	○	
10 11	ふりかえり・まとめ	これまでの実践をふりかえり、PowerPoint 等に取り組内容をまとめる。		○	○	
12 1 2	報告	「なかがわ学発表会」等の公的な発表会で報告する。		○	○	

令和4年度栃木県立馬頭高等学校シラバス

教科名	科目名	単位数	学年・学科・授業クラス
地歴公民	総合社会	2	2 学年 普通科・水産科選択 b 3 学年 普通科・水産科選択 d

科目概要と目標	総合社会は、1 年・2 年次的那珂川学や社会と情報等で学習したことを、更に発展させ那珂川町を中心に地域が抱える課題の中からテーマを選びそれについて議論したり、自分で課題を設定し、地域に取材しながらレポートにまとめ発表して、提言や討論することなどを通して社会の形成者としての資質を養います。そのために町の広報誌や議会だより、日々の新聞やニュースや情報などにも興味を持って読んだり観たりするようにしてください。また、身近な社会の中から、自ら課題を設定し、深く考察し、それを表現・発表する探究活動を行うことによって、社会の優れた形成者として必要な公民的資質を養います。		
教科書・副教材		テーマ別 資料 政治・経済（東京法令出版）	
評価の観点	関心・意欲・態度	・ 那珂川町など地域が抱える課題に意欲的に追究し、積極的に議論に参加している。 ・ 積極的に広報誌や議会だより、新聞などを読んだり、ニュースを見ている。 ・ 積極的に発言をしている。	
	思考・判断・表現	・ 様々な立場を踏まえながら地域について考察し、判断している。 ・ 賛成・反対意見を論理的に展開できる。 ・ 自分の意見を小論文にまとめ表現できる。	
	技能	・ 地域に係わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、効果的に活用している。 ・ 自らまとめた資料をわかりやすくまとめ、適切に発表できる。	
	知識・理解	・ 地域に関する基本的な事柄や理論などを理解し、その知識を身につけている。	
評価の方法	以上の4 観点に沿って、資料収集・作成、ディベート授業、小論文、課題等の提出状況、レポートづくり・発表、授業の取組状況などから総合的に判断します。		

学習計画および評価方法 等

評価の観点：a（関心・意欲・態度）b（思考・判断・表現）c（技能）d（知識・理解）

月	学習内容	学習のねらい・活動	評価の観点			
			a	b	c	d
4	地域の課題 課題設定と探究の仕方	消滅可能性都市【知】 人口減少によって起きる問題と解消に向けた取り組み【知・技・思】 物事の見方やアイデアの出し方、まとめ方を学ぶ【知・技】				○ ○ ○ ○
5 6 7	那珂川町の諸課題 (課題設定と探究)	・新たな特産品の製品化に向けて ・小砂地域の取り組みを題材に若者を地域に参加させる ・限界集落の風習を後世に残す ・e-sportsを用いた町おこし などの課題から自ら関心のあるものを選択し、実際に現地に足を運び地域の人と交流する中で課題の解決に向けて具体的に考え、行動する。【関・技・思】	○	○	○	
8 9 10	レポート作成と中間 発表準備 中間発表	1学期に設定した課題をレポートにまとめ、教員による指導や周囲からの質問を受けた後に、中間発表にむけてレジュメやパワーポイントを作成する。【技】 中間発表は、クラス全体の前での発表だけでなく、学校祭時に校外の方にも観覧していただきながら発表する。【技】			○	
11 12	課題探究の深化と最終発表準備	中間発表を踏まえた上で、不足していた部分を補足し、最終発表に向けて準備する。 【関・思・技】	○	○	○	
12 1 2	課題の最終発表とまとめ	各自が設定した課題をクラス全体の前で発表し、質問意見に答えることによって自分の考えを深化させていく。【思】 最後にまとめのレポートを作成し、町に提言として提出する。【技】 ながわ学発表会で発表する。【技】		○	○	

令和4年度 1 学年 普通科・水産科 「公共」シラバス

教科名	科目名	単位数	学科・学年・授業クラス
地歴公民	公 共	2	普通科・水産科（1 年全クラス）
教科書・副教材		高等学校 公共（帝国書院）	
科目概要	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。 1．現代の諸課題についての考え方を学び、資料を読み解きまとめる力を身につける。 2．現代の諸課題の解決に向けて、基本的な考え方を活用して、公正に判断する力や合意形成するために議論する力を身につける。 3．主体的に現代の諸課題を解決しようとする態度を身に付け、人間としての在り方生き方や公共空間に生きる主権者としての公民として必要な自覚を深める。		
評価の観点	a 知識・技能	現代の諸課題を理解するための基礎的な知識を理解するとともに、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	
	b 思考・判断・表現力	現実社会の諸課題の解決に向けて、基本的な考えを活用し、事実をもとに多面的に考え公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら考えたことを議論する力を身につけようとする。	
	c 主体的に学習に向かう態度	現代の諸課題や身近な社会課題に関心を持ち、その解決に向けた取組を考えるとともに、自身の成長や自立に向けて前向きに取り組もうとする。	
評価の方法		評点について a 知識・技能（40点） b 思考・判断・表現力（40点） 合計100点 c 主体的に学習に向かう態度（20点） 指導要録用観点別評価、および評定について 1．観点 a について 定期テスト75％、定期試験以外の評価25％で換算し、以下のように割り当てる。 40点～28点→A 27点～12点→B 11点～0点→C 2．観点 b について 定期テスト75％、定期試験以外の評価25％で換算し、以下のように割り当てる。 40点～28点→A 27点～12点→B 11点～0点→C 3．観点 c について 定期試験以外の評価を100％で換算し、以下のように割り当てる。 20点～14点→A 13点～6点→B 5点～0点→C	

月	単元	学習内容	学習のねらい・活動	評価の観点		
				a	b	c
4	社会の中の私たち	青年期と社会参画	・青年期が自立に向けた重要な時期であることを理解するとともに、自分自身の課題についてよく考える。	○	○	
5			・よりよく生きることについての自覚を深める。			○
6		宗教・思想・伝統文化と社会	・世界三大宗教や日本の思想・伝統文化の内容を理解し、自分の生き方に影響を与えていることに気づく。 ・宗教的な見方や伝統的な思想・文化から自分の生き方を検証し、参考にできることはないか主体的に考えている。	○	○	○
7	思想から学べるべきもの	倫理的な見方・考え方	・古代ギリシアや中国の思想家の思想から人としてよく生きることについてよく考える。 ・近代・現代思想をもとに、思考実験を通じて自分の意見を主体的に述べている。	○	○	○
	私たちの社会の基本原則	社会の基本原則と憲法の考え方	・近代立憲主義について理解し、権利の保障が自分の生活に深く根ざしていることに気づく。 ・多数決の課題や「囚人のジレンマ」などの思考実験を通じ、民主主義社会の一員としての自覚を深める。	○	○	○
8	私たちと法	法の意義と司法参加	・法や契約についての原理や注意点について理解を深め、成人に備える社会的資質を身につける。 ・交通事故や契約についての事例や死刑制度の是非についての議論に主体的に意見を述べている。	○	○	○
9						
10	私たちと政治	民主社会と政治参加	・日本の政治や選挙制度への理解を深め、民主社会の維持に必要な取組とは何かを考える。 ・ニュース作成や模擬投票を通じて、主張の背景にある考え方をとらえつつ主体的に発言できる。	○	○	○
12		国際政治の動向と平和の追求	・国際社会の動向や日本の安全保障についての理解を深め、よりよい国際関係とはどのように形成できるのかを考える。 ・国際紛争やSDGsなどの諸課題について、自分が何ができるかを考え、行動にうつすことができる。	○	○	○
	私たちと経済	市場経済のしくみ	・経済のしくみについての基礎を理解し、自分の生活にどのような影響を及ぼすかを考える。 ・人生設計や消費税の増減等について、主体的に意見を述べるができる。	○	○	○
		豊かな社会の実現	・日本の雇用と労働について理解を深め、働くことの意義について考える。	○	○	○

			・求人票を見比べて、自分の進路について主体的に考えることができる。			○
		国際経済の動向と格差の是正	・国際的な経済格差が様々な諸問題を生み出すことを理解し、その格差を埋める取組について考える。 ・国内工場の海外移転について、課題点をおさえ、主体的に意見を述べることができる。	○	○	
					○	○
1 2 3	持続可能な社会の実現に向けて	課題探究学習の手法	・課題探究学習の手法について、諸課題をおさえながら理解し、自分の意見の表現に役立てる。	○	○	○

1. 定期試験の点数を7割とする。
2. 提出物、授業態度を3割とし、総合的に評価する。

令和4年度栃木県立馬頭高等学校シラバス

教科名	科目名	単位数	学年・学科・授業クラス
地歴公民	倫理	2	3 学年 普通科

科目概要と目標	人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を身に付けます。 これから社会人になるに向けて、人として何が正しいのか、何が大切なのかを問う科目です。		
教科書・副教材		高等学校 改訂版 倫理（第一学習社） 副教材なし	
評価の観点	関心・意欲・態度	・人間尊重の精神と自己形成について関心を高め、人格の形成と生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらにかかわる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	
	思考・判断・表現	・生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断する。	
	技能	・青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択して、これらを自己形成に資するよう活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	
	知識・理解	・青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などにかかわる基本的な事柄を、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。	
評価の方法	以上の4観点に沿って、年5回の定期考査の結果を75%、ノートや課題提出状況、出欠、授業の取組状況などから25%の割合で、総合的に判断します。		

学習計画および評価方法 等

評価の観点：a（関心・意欲・態度）b（思考・判断・表現）c（技能）d（知識・理解）

月	学習内容	学習のねらい・活動	評価の観点			
			a	b	c	d
4	第1章	よく生きることを求めて【関・知・思】				
5	青年期の課題と自己形成	青年期とは何か【知】	○	○		○
		青年期の思考と感情【知・思】				○
		青年期の人間関係【知・思・技】		○	○	○
		青年期の自己形成【関・知・思・技】	○	○	○	○
6	第2章	ギリシャの思想【知・思】		○		○
7	人間としての自覚	キリスト教・イスラーム・仏教・ 中国の思想【知・思・技】		○	○	○
7	第3章	日本の風土と伝統【関・知・思・技】	○	○	○	○
8	国際社会に生きる日	外来思想の受容【知】				○
9	本人としての自覚	町人意識のめざめと庶民思想【知】				○
		西洋思想との出会い【知】				○
10	第4章	人間の尊厳【知・思・技】		○	○	○
11	現代に生きる人間の倫理	近代の科学革命と自然観【知・思・技】		○	○	○
		自由で平等な社会の実現【知】				○
		人間性の回復と主体性の確立【知・思】		○		○
		現代の思想と人間像【知・思】		○		○
		生命への畏敬と社会参加【知・思・技】		○	○	○
12	第5章	これまでの学習をもとに、自分で課題	○	○	○	
1	現代社会の諸課題と	を設定した倫理の課題をクラス全体の前				
2	倫理	で発表し、質問意見に答えることによっ				
3		て自分の考えを深化させていく。【関・				
		思・技】				

令和4年度栃木県立馬頭高等学校シラバス

教科名	科目名	単位数	学年・学科・授業クラス
地歴公民	政治・経済	2	2 学年 普通科

科目概要と目標	政治・経済は、広い視野に立って、民主主義の本質に対する理解を深め、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解するとともに、それらに関する諸課題について自ら考察し、偏りをできるだけなくした公正な判断力を養い、良識ある公民（社会人）として必要な能力と態度を身に付けます。そのために日々の新聞やニュースや情報などにも興味を持って読んだり観たりするようにしてください。		
教科書・副教材		テーマ別 資料 政治・経済（東京法令出版）	
評価の観点	関心・意欲・態度	・現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考えようとしている。 ・積極的に新聞を読んだり、ニュースを見たりしている。 ・積極的に諸課題に対する発言をしている。	
	思考・判断・表現	・現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見出し、その望ましい解決の在り方について広い視野から多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえて、公正に判断している。 ・賛成・反対意見を論理的に展開できる。 ・自分の意見をにまとめ表現できる。	
	技能	・現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用している。	
	知識・理解	・現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質・特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身につけている。	
評価の方法	以上の4観点に沿って、年5回の定期考査の結果を75%、ノートや課題提出状況、出欠、授業の取組状況などから25%の割合で、総合的に判断します。		

学習計画および評価方法 等

評価の観点：a（関心・意欲・態度） b（思考・判断・表現） c（技能） d（知識・理解）

月	学習内容	学習のねらい・活動	評価の観点			
			a	b	c	d
4	1 現代の政治	民主主義の基本原則【知・思】				
5	(1) 民主主義の基本原則と日本国憲法	日本国憲法の基本的性格と人権【知】	○	○		○
		国会や内閣など国家機関の仕組み【知】	○			○
		権利・義務と政党政治・選挙【知・思・技】	○			○
			○	○	○	○
6	(2) 現代の国際政治	国際政治の動向【知】	○			○
7		国際機関の役割【知・思】	○		○	○
		国際政治の特質や国際紛争の要因【知・思・技】	○	○	○	○
7	2 現代の経済	資本主義経済の変容【知・思】	○	○		○
8	(1) 経済社会の変容と現代社会の仕組み	国民経済の仕組み【知】	○			○
9		経済成長と景気変動【知・思】	○	○		○
		経済活動の在り方と福祉【知・思・技】	○	○	○	○
10	(2) 国民経済と国際経済	貿易の意義と為替相場の仕組み【知】	○			○
11		国際協調の必要性和国際経済における日本の役割【知・思・技】	○	○	○	○
12	3 現代社会の諸課題	これまでの学習をもとに、自分で課題を設定した政治・経済の課題をクラス全体の前で発表し、質問意見に答えることによって自分の考えを深化させていく。 【関・思・技】	○	○	○	
1						
2						
3						

令和4年度栃木県立馬頭高等学校シラバス

教科名	科目名	単位数	学年・学科・授業クラス
地歴公民	現代社会研究	2	2 学年 普通科選択 a 3 学年 普通科選択 c

科目概要と目標	現代社会研究は、1 年次の地理・世界史や社会と情報等で学習したことを、更に発展させ現代社会の中からテーマを選びそれについて議論したり、自分で課題を設定し、レポートにまとめ発表して、討論することなどを通して社会の形成者としての資質を養います。そのために日々の新聞やニュースや情報などにも興味を持って読んだり観たりするようにしてください。また、現代の社会の中から、自ら課題を設定し、深く考察し、それを表現・発表する探究活動を行うことによって、社会の優位な形成者として必要な公民的資質を養う。		
教科書・副教材		テーマ別 資料 政治・経済（東京法令出版）	
評価の観点	関心・意欲・態度	・現代の日本が抱える課題に意欲的に追究し、積極的に議論に参加している。 ・積極的に新聞を読んだり、ニュースを見ている。 ・積極的に発言をしている。	
	思考・判断・表現	・様々な立場を踏まえながら現代社会について考察し、判断している。 ・賛成・反対意見を論理的に展開できる。 ・自分の意見を小論文にまとめ表現できる。	
	技能	・現代社会に係わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、効果的に活用している。	
	知識・理解	・現代社会に関する基本的な事柄や理論などを理解し、その知識を身につけている。	
評価の方法	以上の4 観点に沿って、定期考査、ディベート授業、小論文、課題等の提出状況、レポートづくり・発表、授業の取組状況などから総合的に判断します。		

学習計画および評価方法 等

評価の観点：a（関心・意欲・態度） b（思考・判断・表現） c（技能） d（知識・理解）

月	学習内容	学習のねらい・活動	評価の観点			
4 5	現代社会の諸課題①	環境問題 世界の環境問題【知】 自然破壊から共生へ【思・資】	a	b	c	d
				○		○
5 6	現代社会の諸課題②	人口問題 世界の人口問題、日本の人口問題【知】 食料問題 世界の食糧問題、日本の食糧問題【知】 人口と食料（統計資料から見た世界） 【思・資】		○		○
7 8 9	現代社会の諸課題③	人権問題 世界の人権問題、日本の人権問題【知】 【ディベート】死刑制度（存続か廃止か） 【思・資】		○	○	○
10 11	課題設定と探究 （課題設定・探究・ レポートづくり）	これまで学んできた現代社会の諸問題の中から、自ら課題を設定する。教科書その他、図書館の文献、新聞、インターネットなどを利用して調べ、整理し、解決策等を考え、それらをレポートに表現することによって進学時の小論文にも対応する。 【関・思・資】	○	○	○	
12 1 2	課題設定と探求 （発表・討論）	各自が作成したレポートをもとに、自分で設定した現代社会の課題をクラス全体の前で発表し、質問意見に答えることによって自分の考えを深化させていく。 【思】	○	○	○	

令和4年度栃木県立馬頭高等学校シラバス

教科名	科目名	単位数	学年・学科・授業クラス
地歴公民	世界史A	2	2 学年 水産科

科目概要と目標	近現代を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連づけながら理解し、人類の課題を多角的に考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を身につけます。	
	教科書・副教材	明解世界史A（帝国書院） 明解世界史図説エスカリエ（帝国書院）
評価の観点	関心・意欲・態度	世界の近現代史について関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとしている。
	思考・判断・表現	世界の近現代史についての課題を見出し、多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。追及し考察した過程や結果を適切に表現している。
	技能	世界の近現代史についての諸資料を収集し、有効な情報を選択して活用する事を通して歴史的事象を追及する方法を身に付けている。
	知識・理解	世界の近現代史について基本的な事柄を我が国の歴史と関連付けながら理解しその知識を身に付けている。
評価の方法	定期考査 70%：年5回の定期テストの結果を総合的に評価します。各考査の出題範囲などはその都度提示します。 ノート、課題プリント等 30%：ノート、レポート課題プリント、出欠などを総合的に判断します。	

学習計画および評価方法 等（科の特性に応じて書式や項目を改変してください）

評価の観点：a（関心・意欲・態度）b（思考・判断・表現）c（技能）d（知識・理解）

月	学習内容	学習のねらい・活動	評価の観点			
			a	b	c	d
4	3章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺 1節 ヨーロッパとアメリカの諸革命	18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命について理解し、その知識を身につけている。	○	○		○
5	2節 自由主義・ナショナリズムの進展	1848年を転換点として、自由主義とナショナリズムが進展したことを理解し、その知識を身につけている。	○	○		○
6	3節 アジア諸国の動揺	世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容など、アジア諸国の動揺を理解し、その知識を身につけている。	○	○		○
7	4節 東アジアの大変動		○	○		○
8 9	2部 地球社会と日本 1章 現代世界の芽ばえと世界大戦 1節 現在につながる社会の形成	産業構造の変化や大量消費社会・大衆社会の始まりなど、20世紀という時代の特徴を人類史的視野から把握する。	○	○		○

10	2 節 第 1 次世界大戦がもたらしたもの 3 節 “民族自決”を求めて	欧米諸国によるアジア・アフリカの植民地化をめぐる対立から第 1 次世界大戦にいたる過程について理解し、その知識を身につけている。 第一次世界大戦後、インド・トルコ・中国などの民族運動の特色と、アジア諸民族の動向が世界史の新しい潮流をつくり出したことを理解し、その知識を身につけている。	○	○		○
11	4 節 経済危機から第二次世界大戦へ	世界恐慌と資本主義の変容、20 世紀前半の国際政治の流れ、第二次世界大戦の原因や性格、現代の戦争の特質と平和の意義について理解し、その知識を身につけている。	○	○		○
12	2 冷戦から地球社会へ 1 節 冷たい戦争の時代	第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立、平和共存と多極化の進展などを通して、1970 年頃までの世界の大きな動向について理解し、その知識を身につけている。	○	○		○
1 2	2 節 冷戦終結への道のり	市場経済の世界化、米ソのゆらぎや冷戦の終結などから、1970 年代以降の世界の大きな変容について理解し、その知識を身につけている。	○	○		○
	3 節 地球社会への歩み	冷戦終結後の世界の政治・経済の動向、これからの国際社会における日本の役割、日本が世界の諸国・諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向について理解し、その知識を身につけている。	○	○		○
3	3 節 持続可能な社会をめざして	地球規模での問題の出現を理解し、“共に生きる世界”“持続可能な社会”を構築するための展望をもち、その知識を身につけている。	○	○	○	○

令和4年度栃木県立馬頭高等学校シラバス

教科名		科目名	単位数	学年・学科・授業クラス
地歴公民		現代社会	2	3 学年 水産科
科目概要と目標	人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って現代の社会と人間について理解を深め、現代社会の基本的な問題について、公正に判断し、自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身に付けます。			
教科書・副教材		教科書 高等学校改訂版新現代社会(第一学習社) 副教材 ニュービジョン 現社（浜島書店）		
評価の観点	関心・意欲・態度	現代社会と人間に関わる問題に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的平和的な社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。		
	思考・判断・表現	現代社会と人間に関わる問題から課題を見出し、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ、公正に判断している。		
	技能	現代社会と人間に関わる問題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択活用して学び方を習得するとともに、追究考察した過程や結果を適切に表現している。		
	知識・理解	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方に関わる基本的な事柄や学び方を理解し、その知識を身に付けている。		
評価の方法	定期考査 70%：年 5 回の定期テストの結果を総合的に評価します。各考査の出題範囲などはその都度提示します。 ノート、課題プリント等 30%：ノート、レポート課題プリント、出欠などを総合的に判断します。			

学習計画および評価方法 等(科の特性に応じて書式や項目を改変してください)

評価の観点：a(関心・意欲・態度) b(思考・判断・表現) c(技能) d(知識・理解)

月	学習内容	学習のねらい・活動	評価の観点			
			a	b	c	d
4	第1章 青年期と自己の形成	・青年期の特徴と意義を理解する。 ・伝統や文化、祭りや年中行事を通して、日本文化と日本人の特徴を理解する。 ・人生における職業や学習の意味について考える。	○ ○ ○	○ ○ ○		○ ○ ○
5	第2章 個人の尊重と法の支配	・個人と国家の関係の変化について理解する。 ・法の支配、基本的人権保障の歴史的な発展について理解する。 ・世界の政治体制について理解する。	○ ○ ○	○ ○ ○		○ ○ ○
6	第3章 現代の民主政治と政治参加の意義	・日本国憲法の成立と原則について、理解する。 ・日本国憲法の保障する基本的人権について、理解する。 ・国会・内閣・裁判所の役割について理解する。	○ ○ ○	○ ○ ○		○ ○ ○

月	学習内容	学習のねらい・活動	評価の観点			
7	第3章 現代の民主政治と政治参加の意義	・地方自治、選挙制度、政治参加について理解する。	a	b	c	d
			○	○		○
8	第4章 国際政治の動向と日本の役割	・国家と国際社会の関係について理解する。	○	○		○
9		・国際連合の役割と課題について理解する。	○	○		○
		・第二次世界大戦後の国際社会の推移について理解する。	○	○		○
		・地域紛争と人種・民族問題、国境と領土問題など、国際問題について理解する。	○	○	○	○
10	第5章 現代の経済社会と私たちの生活	・現代の経済体制の成立と、経済の基本原則について理解する。	○	○		○
1		・経済における政府（財政）の役割や、企業、金融機関の役割について理解する。	○	○		○
		・中小企業や農業、労働問題や公害、消費者問題など、現代の日本経済がかかえる問題点について理解し、その解決について考える。	○	○	○	○
12	第6章 国際経済の動向と日本の役割	・現代の国際経済体制の成立と、しくみについて理解する。	○	○		○
1		・地域的経済統合の進展や、発展途上国の経済と南北問題など、現代の国際経済の諸問題について理解するとともに、そのなかで日本が果たす役割について考える。	○	○	○	○